

目 次

まえがき v

第1章 国語学史と言語学史の接点……………	1
1.1. 国語学史における「明治」という時代	1
1.2. 落合・小中村『 <small>中等</small> 日本文典』など	2
1.3. 日本文典と西洋文典	4
1.4. 上田萬年と近代言語学	6
1.5. 『廣日本文典』前後	9
1.6. 大槻文彦と英文典	11
1.7. 西洋の普遍文法論と松下大三郎	14
1.8. ポール・ロワイヤル文法の系譜	18
1.9. 日本における普遍文法論	21
1.10. 松下文法に対する評価	23
1.11. 研究史の分野における貢献とは	26
第2章 近代日本における普遍文法の行方……………	29
2.1. 比較言語学と普遍文法	29
2.2. 普遍文法論と近代日本の言語研究	35
2.3. 小林英夫の一般文法	39
2.4. 松下批判の背景	42
2.5. 18世紀の普遍文法観	46
2.6. ソシユールと『言語學原論』	49
2.7. ソシユールと普遍文法	56
2.8. 松下文法と三上章	60
2.9. 松下大三郎と S.-Y. Kuroda	64
第3章 国語の特質と普遍文法論……………	67
3.1. 言語の多様性と西洋式日本文典批判	67
3.2. 「比較文法論」事始め	69

3.3.	学校文法の品詞体系	73
3.4.	品詞分類の観点	77
3.5.	富士谷成章の品詞分類	80
3.6.	近代日本の品詞分類	85
3.7.	言語類型論と「國語の本性」	94
3.8.	松下大三郎の品詞観	98
3.9.	山田孝雄と18世紀の普遍文法	102
3.10.	品詞を考える視点	109
第4章	西洋概念の受容と拡張—助動詞・ヴォイス・口氣—	116
4.1.	大槻文法の位置づけ	116
4.2.	大槻文法の遺産(1)	120
4.3.	大槻文法の遺産(2)	122
4.4.	日本語研究における「ヴォイス」の概念	125
4.5.	大槻文法における「口氣」の概念	130
4.6.	ヴォイス概念の受容と拡張	132
4.7.	ヴォイス概念の混乱	135
4.8.	西洋的ヴォイスと脱西洋的ヴォイス	139
4.9.	付記—那珂通世の『國語學』—	146
第5章	言語学史から見る大槻文彦の言語観	152
5.1.	はじめに	152
5.2.	大槻文彦と価値からの独立	154
5.3.	国学と國語優秀説	156
5.4.	西洋における言語優劣言説	159
5.5.	大槻文彦の矛盾	163
5.6.	フンボルトと19世紀の言語類型論	166
5.7.	「萬國言語共進會」の背景	173
5.8.	『言語篇』の言語優劣論	175
5.9.	「國語の天性」をめぐる	180
5.10.	言語の“Genius”	181
5.11.	サピアと言語の多様性	186
5.12.	サピアの“Genius”とパラメータの理論	192
5.13.	言語学史の視点	196

5.14. おわりに—グローバルな言語学史の構想— 201

注	207
あとがき	222
参考文献	225
索引	250

- 【コラム 1】 比較言語学 34
- 【コラム 2】 ソシユールと言語記号の恣意性 54
- 【コラム 3】 山田孝雄と「ハイゼ氏の獨逸文典」 72
- 【コラム 4】 富士谷成章, 山田孝雄と時代別共時態の記述 84
- 【コラム 5】 スウィートと明治日本の言語学 107
- 【コラム 6】 大槻, 山田, 松下に見る品詞論の系譜 119
- 【コラム 7】 ヘンリー・スウィートとヒギンズ教授 185
- 【コラム 8】 サピアの伝記 191